

## ミツクリザメの体色と一奇形個体

上野 輝彌<sup>\*</sup>・中村 一恵<sup>\*\*</sup>・三上 進<sup>\*\*\*</sup>On the Body Coloration and an Abnormal Specimen of  
the Goblin Shark, *Mitsukurina owstoni* JORDANTeruya UYENO<sup>\*</sup>, Kazue NAKAMURA<sup>\*\*</sup>, and Susumu MIKAMI<sup>\*\*\*</sup>

## Abstract

The body coloration of a live specimen of the goblin shark, *Mitsukurina owstoni* JORDAN, is reported here by color photographs. The color is white to light purplish grey, and semitransparent. The specimen was collected in Suruga Bay, Shizuoka Prefecture, and was an immature male which was 1320 mm in total length. Another specimen of the same species, which is abnormal with the bent snout was also collected in Suruga Bay. In the specimen the snout is directed toward left at the angle of about 45 degree from the bodyaxis. This specimen was female and 1410 mm in total length.

ミツクリザメ *Mitsukurina owstoni* JORDAN は駿河湾、相模湾に生息する深海性のサメであって、ネズミザメ目 Lamniformes, ミツクリザメ科 Mitsukurinidae に属する。体色は白色で紫灰色を帯びる部分もあることが報告されており、全長 5 m に達するとされている。吻がへら状に突出しており、外形が酷似することなどから、Woodward (1889) が白亜紀の化石に基づき創設した *Scapanorhynchus* 属, Scapanorhynchidae 科の中に入れて来た。しかし、最近に至って再び別属別科として認める傾向が強くなっている (Compagno, 1973)。ミツクリザメ採捕の最近の記録は久保田・青木 (1971) によって要約されているので、ここにくり返さぬが、最近ではかなり珍しいサメの一種である。

筆者の一人、中村は 1967年に駿河湾で捕獲されたミツクリザメを漁船上で生きている状態でカラー写真に撮影することに成功した。筆者らの知る限りではミツクリザメの体色はきわめて特殊であるにもかかわらずカラー写真で発表されていないので、ここに報告する次第である。

また筆者の一人、三上は 1968年に駿河湾で捕獲されたミツクリザメの珍しい一奇形個体を手し保存することができた。この種の奇形標本は興味ある形態をしており、未記録でもあるので、ここに合わせて報告することとした。

\* 日本ルーテル神学大学 Nippon Luther Shingaku Daigaku

\*\* 神奈川県立博物館 Kanagawa Prefectural Museum

\*\*\* よみうりランド海水水族館 Yomiuri-land Marine Aquarium

### 体色撮影個体

採集年月日：1967年10月23日

採集場所：駿河湾，静岡県獅子浜から約20kmの大瀬崎沖，水深約400mの場所

採集方法：底曳網

採集者：盛庄丸，中村一恵

標本保存場所：神奈川県立博物館

ミツクリザメ（雄）が漁船上に引きあげられた時の体色は図版1で明らかな如く，全体としてほぼ白色に近く，体の部位によっては血液の色で桃色にみえた。吻端から眼の上後方に至る頭部背面はわずかに紫灰色を呈していた。口部周辺から鰓孔にかけてと，肛門周辺は充血してかなり赤みを帯びていた。各鰭は白色で，むしろ白濁半透明の感があった。

本標本はその後，10%ホルマリン液中に固定，保存され現在に至っているが，固定後の体色は灰色を帯び，いわゆる一般的なサメの体色に近い色に変化している。

なおこの個体と同時に採集された生物を，当時の中村のノートにより記せば次の様になる。「魚類はギンザメのほか種類多く，ムラサキヌタウナギが多かった。ポタンエビ，トンガラシ（地方名），ミノエビなどのエビ類が豊富。貝類3～4種，ヒカリボヤ，深海性のナマコ，ウミエラ，クラゲ，タコ，発光性の小形イカ，ガラテア，ヤドカリなどであった」。

標本各部位測定値を表1に示す。

### 奇形個体

採集年月日：1968年1月

採集場所：駿河湾，静岡県獅子浜魚市場

採集方法：刺網

採集者：不明

標本保存場所：よみうりランド海水水族館

本標本は頭部が吻の基部より屈折している珍奇なものである。吻部は鼻孔附近で体の正中線に対し左側へ約45°の角度で屈折している。吻端から鼻孔までの距離は左側が143mm，右側が180mmであり，かなりの差異がみられる。そのため左鼻孔附近には深いしわが生じ，右鼻孔附近は伸長している。

本個体はこの様な異常形態でかなりの期間遊泳していたらしく，吻より後方の頭部もかなりゆがみを生じており，左右対称ではない。この奇形を生じた原因を調査するために，レントゲン写真の撮影も行われたが，詳細はわからず，その構造究明は正常個体との比較解剖に待たねばならない。

標本各部位測定値を表1に示す。

表1 ミツクリザメ2標本の体各部測定値

Table 1. The external measurements of 2 specimens of *Mitsukurina owstoni* JORDAN from Suruga Bay

	正常個体	奇形個体
全長	1 3 2 0 mm	1 4 1 0 mm
頭長	3 6 8	3 7 4
眼径	1 5	2 1 . 5
最後の鰓孔～肛門	3 3 8	3 5 0
肛門～尾鳍後端	6 2 4	7 2 9
吻長	2 0 2	左 1 7 3 右 2 1 4
吻端～鼻孔	1 6 8	左 1 4 3 右 1 8 0
鼻孔間隔	7 7	6 2
吻端～第一背鳍基底前縁	4 3 4	4 9 1
第一背鳍基底長	9 0	8 9
第二背鳍基底長	7 9	7 7
胸鳍長	1 2 0	1 4 4
腹鳍基底長	1 2 5	1 5 3
臀鳍基底長	1 1 0	1 4 6
交接器長(雄)	左 2 5 右 2 7	—
上顎長	1 0 0	9 5
下顎長	8 4	8 0
尾鳍下葉長	4 5 3	4 8 6
眼径	1 5	2 1 . 5

## 引用文献

- Compagno, L. J. V. 1973. Interrelationships of living elasmobranchs. *In* Interrelationships of fishes. Edited by P. H. Greenwood, R. S. Miles and C. Patterson. Linnean Society of London. pp. 15-61.
- 久保田正・青木光義. 1971. 駿河湾で漁獲されたミツクリザメとラブカ. 採集と飼育. 33巻8号: 191~193.
- Woodward, A. S. 1889. On the Myriacanthidae, An extinct family of Chimaeroid fishes. *Ann. Mag. Nat. Hist.* (6), ser. 4 : 275-280.

**EXPLANATION OF PLATES****PLATE 1**

- Fig. 1. A living specimen of the Goblin Shark, *Mitsukurina owstoni*. Photos by K. Nakamura  
Fig. 2. Ventral aspect of head region of the same specimen.  
Fig. 3. Lateral aspect of head region of the same specimen.

**PLATE 2**

- Fig. 1. An abnormal specimen of *Mitsukurina owstoni*.  
Fig. 2. Ventral aspect of head region of the same specimen.  
Fig. 3. Lateral aspect of head region of the same specimen.







